

1. 事業概要

1-1) 事業名

地域の魅力に迫る！ 紀北町編

～地域が盛り上がる移動博物館の実現に向けて～

1-2) 事業申請者

氏名 中野 環 (48歳)

組織名・職名 三重県総合博物館・学芸員 (無脊椎動物担当)

1-3) 事業の実施場所および実施期間

場所 三重県北牟婁郡紀北町地内および

三重県総合博物館 (〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 3060 TEL 059-228-2283)

期間 平成30年5月1日から平成31年3月31日まで

2. 事業の目的

三重県総合博物館は、三重に関する調査研究を行い、その結果は所在地の津市近隣だけではなく、県民に広く伝えることを任務のひとつとしている。開館4年が経過し、津市近隣地域の住民を中心に利用される仕組みができつつある。

本事業は、三重県北牟婁郡紀北町において動植物および地形地質の調査を行い、成果を地域の学校や公民館等で展示することで、交通事情等の理由で頻繁に当館を利用できない児童生徒や住民に三重の魅力を伝えると共に、博物館をより身近な存在と感じてもらい、今後の博物館利用者を獲得することを目的のひとつとした。

3. 実施内容

3-1) 紀北町での調査・資料採集

資料の「収集」を目的として、北牟婁郡紀北町地内において、自然系学芸員が地域で活動する団体と連携しながら調査を行なった。紀北町は、紀伊長島町と海山町が合併してできた町で、対象となる範囲が広いため、本事業では旧海山町地内および旧紀伊長島地内の離島を中心に、地形地質、植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、軟体動物の分野について実施した(表1)。

調査で得られた資料は、標本を作成し、過去の調査と比較して環境の変化や生物相に関して考察する材料とした。

表1. 調査場所

調査場所		メッシュコード ※ H3 環境省作成メッシュ地形図
1	紀北町 不動谷(銚子川上流)	5136-1151、 5136-1152 5136-1162、 5136-1163
2	紀北町小浦 白石湖付近	5136-1139
3	紀北町船越 寺倉峠付近	5136-1221
4	紀北町島勝浦	5136-1234
5	大島	5136-1279
6	鈴島	5136-1284、 5136-1294



不動谷林道の環境



朽ち木下に生息するヤスデの一種



朽ち木を利用するウツボホコリ科 (変形菌)



落葉下に生息するヒダリマキゴマガイ

図

1. 不動谷 (紀北町海山区) 調査.



調査場所の環境



ツブカワザンショウ



調査場所の環境



カクベンケイガニ

図 2. 白石湖（紀北町海山区）調査. 白石湖は海に開口しており、汽水環境下にある.

白石湖は引本湾に開口する汽水湖で、紀北町のブランドガキである渡利ガキ（イワガキ）の養殖が行われている。白石湖岸を中心とする場所で、カクベンケイガニやヒメアカイソモドキなど、6種類の甲殻類を確認した。白石湖奥部に広がるヨシ原付近には、ノコギリガザミ類が巣穴として掘った長径 20～30 cmの穴を確認した。軟体動物はマガキやイシダタミなどの三重県に広く分布する種類が多く生息していた。干潮時には白石湖の潮位が 70 cmほど低くなり、ヨシ原付近や転石上には希少種のツブカワザンショウが多く見られた。また、白石湖周囲に広がる杉林林床下でニッポンマイマイ、ヒロベソマイマイの一種を確認した（表 2）

表2. 紀北町小浦付近に生息する甲殻類および貝類.

種 名	備 考
甲殻類	
カクベンケイガニ	水辺の石垣の隙間
クロベンケイガニ	水辺の石垣の隙間
アカテガニ	陸域
ヒメアカイソモドキ	潮間帯の転石下
ケフサイソガニ	潮間帯転石下
ノコギリガザミsp.	巣穴および死亡個体を確認
貝類	
ヤスリヒザラガイ	潮間帯転石裏
コウダカアオガイ	潮間帯転石上、石垣の隙間
ヒメコザラ	潮間帯転石上、ウミニナの殻上
イシダタミ	潮間帯
タマキビ	潮上帯 個体数少ない
サツマクリイロカワザンショウ	ヨシ原
カワザンショウ	ヨシ原
ツブカワザンショウ	白石湖に流入する小河川河口域
ウミニナ	潮間帯泥上
ホソウミニナ	潮間帯泥上
クログチ	石垣間
コウロエンカワヒバリ	潮間帯転石間
マガキ	潮間帯

紀北町寺倉峠付近はスギやヒノキが植林されている。引本湾を見下ろす景色は、地域の魅力を伝えることができる素材である（図3）。リンナイはニホンシカによる食害が進み、下層植生はウラジロやコシダなどのシダ植物が目立ったが、林道脇にはセンブリが比較的多くみられた。

寺倉山は乾燥気味で、昆虫や陸産貝類も限られていた。また、大きさは5 mm以下のものが多いが、純度の高い水晶がみられた。水晶の分布は限られる。



水晶を採取する



水晶



寺倉山から引本湾を望む

図 3. 寺倉峠付近の調査.

紀北町の沖合いに位置する大島および鈴島の調査を実施した。大島は暖地性植物群落として国の天然記念物に指定されている。大島は、ドブネズミが侵入していることが知られており、三重自然誌の会等により駆除が行われたが、現在でも完全に駆除できていない。大島付近には国の天然記念物であるカンムリウミスズメが生息し、また、ウロコマイマイなど本島のみで生息が確認されている陸産貝類が分布するなど、注目すべき地域のひとつである。

今回の調査では、哺乳類についてはドブネズミのものと推定される糞塊を、鳥類についてはカラスバトやトビを確認した。爬虫類についてはタカチホベビ、ニホントカゲを確認した。ニホントカゲは本島からは初めての記録である。植物では幼体を含むオオタニワタリの生育を確認した。また、岩礁には地衣類が付着していた。灯台に続く道沿には樹木が倒れ、西側斜面の植生は枯死など台風や塩害の影響を確認した。貝類はウロコマイマイ、ウスベニギセル、ツムガタギセル、サドヤマトガイ、ミヤコムシオイなどの陸産貝類を確認した（図4）。

鈴島は三重県の天然記念物の指定を受けている。紀北町三浦から1 kmに満たない距離にあるため、ニホンジカやニホンイノシシなどの侵入が確認されている。島内にある2つの海跡湖のまわりで、ニホンイノシシのぬた場や、ニホンジカの足跡を確認した。また、海跡湖周囲には三重県の希少野生動植物種に指定されているハマナツメが生育する。約10年前には海跡湖岸にはシバナが生育していたが、今回は確認できなかった。調査日は荒天で昆虫類はほとんど確認できなかった。陸産貝類については、これまでの調査でイセノナミマイマイ、ミヤコムシオイ、ツムガタギセルなどが確認されているが、今回は全く確認できなかった。一方、海岸の転石帯にはクボガイやクモリアオガイ、海跡湖内には希少種のコゲツノブエなどの貝類が多くみられた。また、島の北側には生痕化石を確認した（図5）。

尚、今回の大島および鈴島の調査実施にあたって、文化庁および三重県、紀北町から許可を受けた。



図 4. 大島の調査地の環境



東側にある海跡湖と周囲に生育するハマナツメ

ハマナツメの果実



西側にある海跡湖

生痕化石

図 5. 鈴島の調査地の環境

3-2) 調査資料の活用 移動展示『たんけん！はっけん！紀北町』

南北に長い三重県では、東紀州や伊賀など博物館から離れていて頻繁に博物館を利用することが困難な地域においては、博物館から地域に出向き、博物館活動に関する成果を還元する移動博物館の実施は、住民にとって科学教育に触れる良い機会となる。

移動展示は2019年2月23日に実施した。展示は、三重県総合博物館の基本展示の内容をコンパクトにまとめたものに加え、開催地である紀北町に関連した自然や歴史資料を紹介する内容とした。

地域住民に地域の魅力を再発見していただくきっかけとすることを、ねらいのひとつとした。特に紀北中学校と連携し、授業や文化祭など年間を通して、自分たちの住む町に魅力を感じるような学びの場を創り出すことを心がけた。なお、生徒の調べ活動は、総合学習の時間などを活用し、以下に示す内容で連携を図った(図6)。

【紀北中学校との連携の流れ】

- ① 紀北町の自然や文化に関する調べ学習(夏休課題)
- ② 夏休み明けに、博物館の学芸員による出前授業(調査のまとめ方指導)(図6)
- ③ 文化祭での展示発表
- ④ 東長島公民館(紀北町東長島)での移動展示(図7)
- ⑤ 三重県総合博物館での展示(図8)

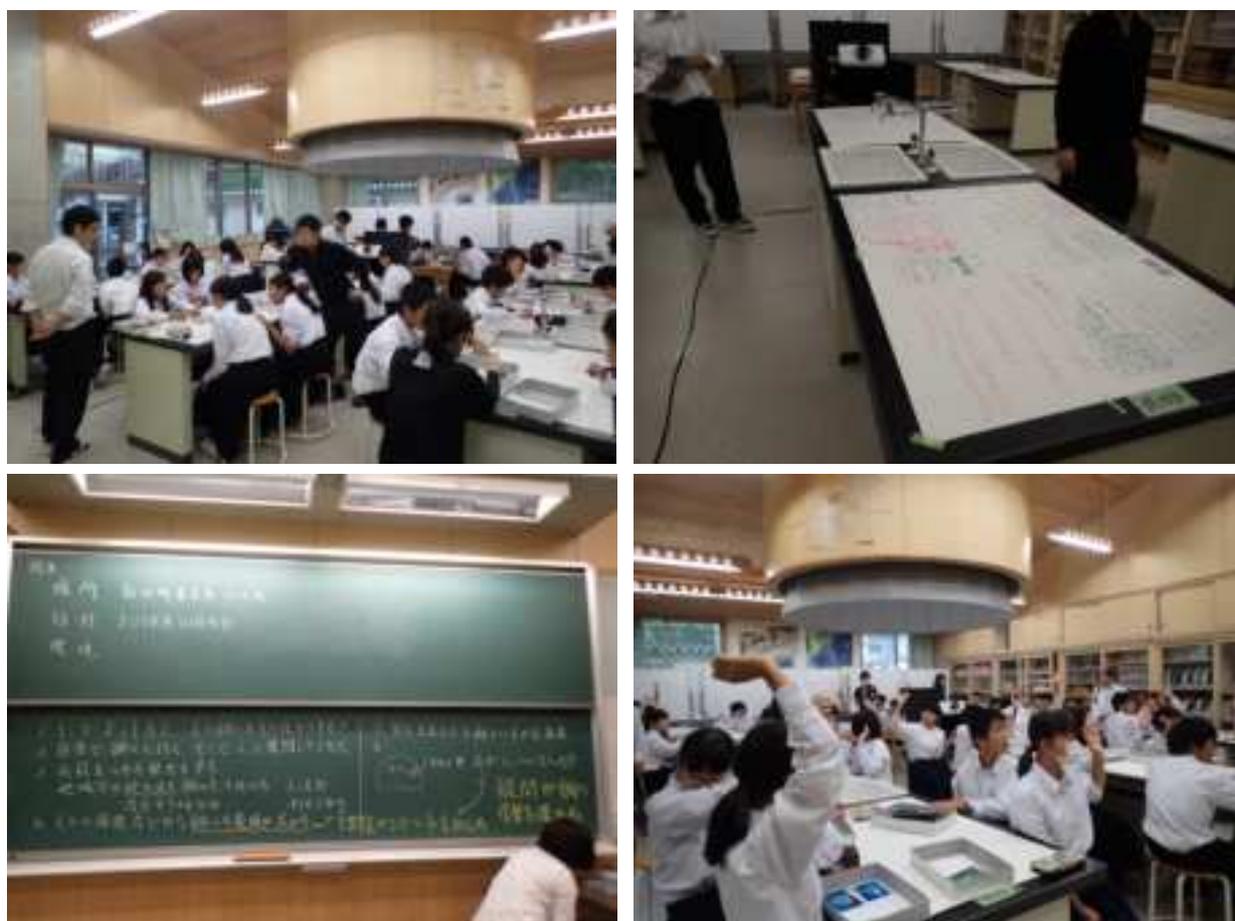


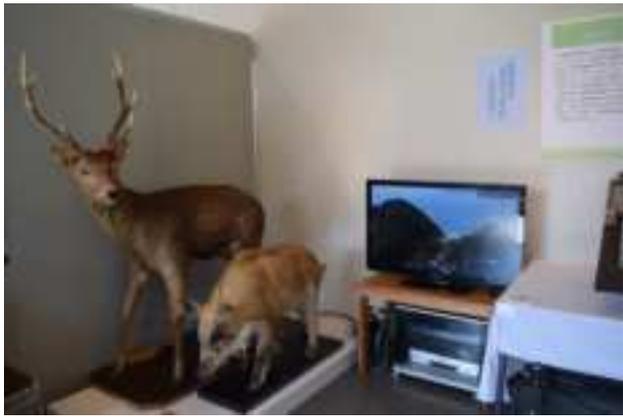
図6. 紀北中学校における出前授業.



紀北中学生の展示



移動展示会場



紀北町調査速報

図 7. 東長島公民館における移動展示.

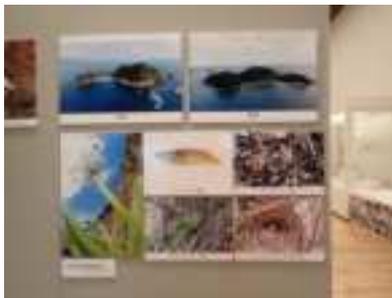


図 8. 三重県総合博物館におけるミニ展示.

3-3) 調査資料の活用と自然情報の発信

調査資料は、紀北町東長島公民館における移動展示および、三重県総合博物館におけるミニ企画展で活用と自然情報の発信を図った。

当初、調査速報等を簡易冊子にまとめる計画を立てたが、調査で得られた資料の同定やとりまとめに時間を要したため、今回は冊子の制作は行わなかった。今後、引き続き一般の来館者に向けて地域の自然情報を発信し「身近に感じる博物館」、「地域の魅力を伝える博物館」をアピールするために自然情報の発信を検討している。

4. 成果

4-1) 基礎データ

調査は夏期、秋季を中心に実施した。秋季に実施した離島調査は、哺乳類、鳥類、爬虫類、貝類、植物、化石、地形の分野に関して基礎的なデータを収集することができた。このうち陸産貝類については2010年に大島で生息を確認したノミガイ、鈴島のイセノナミマイマイ、ミヤコムシオイ、ツムガタギセルなどの生息を確認できなかった。今後、定期的に離島調査を実施するなど引き続き自然誌情報の蓄積に努めたい。また、基礎調査を地域で活動する団体や個人と共に実施し、精度を高めたい。

4-2) 調査資料の活用 移動展示『たんけん！はっけん！紀北町』

移動展示の実施にあたり、紀北中学校と連携を図った。授業や行事で自分たちが住む町を調べる際に学芸員が調べ方やまとめかたを支援した。地元の豊かな自然を題材に科学の学習に対する動機付けを行うとともに、豊かな自然を次世代に伝えてゆくことの大切さを啓発した。必要なものを選択して調べ、他者に発表することは、博物館活動の「調査研究」と「活用発信」に相当する。生徒にとっては、これまで夏休みの自由研究の場で完結していた調べ学習を発展させる機会となったと考える。

移動展示では、学芸員が実施した調査速報に加え、生徒による調べ学習の成果を紹介することで地域住民の興味関心や注目度を高めてもらうことができたと考える。

4-3) 調査資料の活用と自然情報の発信

調査資料は、調査地域の紀北町内の学校や公民館等の施設での展示に加え、三重県総合博物館のミニ企画展で活用することで広く三重の自然情報を発信することができた。今後は、調査結果を冊子にまとめ、県内各地の学校への出前講座や展示観覧を補足する資料の制作を進めると共に、効果的に情報発信できるよう県内各地で動植物等の調査を実施している諸団体や個人との連携強化は不可欠であると考えられる。